

やさしい病害虫講座 4 天敵の代表 テントウムシ 木村 裕

最近、「飛べないテントウムシ」を利用して、農作物のアブラムシを防除しようとする話が新聞等マスコミで話題となっています。うまく利用すれば無農薬も可能ではないかとの期待もあります。

このように有益な昆虫（天敵）の利用について考えてみましょう。

天敵には昆虫、クモなどの小動物、微生物（細菌やウイルス）などがあります。

昆虫・小動物には、害虫を捕らえて頭からかぶりつく、体液を吸い取る、巣に持ち帰り子供の餌にするなどの捕食性昆虫と、害虫の体内に無断で住み込み、内部から食い荒らす寄生性昆虫があります。

微生物には、害虫の体内に入り込み、虫そのものを病気にし、最後には死亡させる細菌やウイルスがあります。昆虫の社会には医者も薬も病院もありませんので、病気は命とりになります。

天敵の代表選手のテントウムシの場合、成虫も幼虫もアブラムシのみを食べ、それ以外の生き物には見向きもしませんので、非常に有力な天敵です。テントウムシ一家が活動を始めるとあっという間にアブラムシの集団は食い尽くされて全滅します。それゆえテントウムシの縄張りでアブラムシが増えることは不可能です。

それゆえアブラムシがまず増えるのは、美味しい食べ物（野菜や花）があり、自分達の生活を邪魔する天敵がない所です。寄り集まって我が世の春を謳歌しているアブラムシ一家をテントウムシが見つけると、「しめた！」とばかり駆けつけ、近くの葉の裏に数十個の黄色の卵をかためて産みつけます。ナスにつくテントウムシダマシの卵とそっくりです。だからナスに産み付けられた卵ではどちらの種類の卵か区別が付きません。

通常はまずアブラムシが増殖し、ついでテントウムシが増殖するので、時間的なズレがあります。一般的にテントウムシが増殖するときには、アブラムシはすでに増殖のピーク（吸汁被害も大きい時期）に達しています。火事になって家全体が火に包まれ

た頃に消防車がやってきたようなもので、消火、延焼防止には役に立ちますが、その家は焼け落ちてしまいます。それゆえテントウムシのみに消火を頼るのは厳しいかもしれません。もちろん、早めにアブラムシ集団を見つけて駆けつけてくれた時には非常に有効に働きます。アブラムシの発生に気づいたら、近くの草むらからテントウムシを集めて畑に放し、初期消火をやってもらうのも一つの防除法です。

他所からテントウムシを集めてきて放すのはよいアイデアですが、餌が気に入らないとさっさと逃げ去り、期待通りの結果が得られないことも少なくありません。そこで他所へ移動しないテントウムシとして、「飛べないテントウムシ」が登場しました。これならそこに住みついて繁殖が期待されます。最近、このテントウムシが生物農薬として販売され始めました。

テントウムシの成虫は皆さん、よく知っておられますが、幼虫はわかりますか？ 害虫と思って取り除かないよう注意してください。



主な捕食性昆虫・小動物、寄生性昆虫

捕食性昆虫・小動物

テントウムシ類、アシナガバチ類、ベッコウバチ等の狩人蜂、ヒラタアブ類、サシガメ類、クサカゲロウ類、カブリダニ類、クモ類、ムカデ類

寄生性昆虫

寄生蜂（コマユバチ類、ヒメバチ類、タマゴバチ類、トビコバチ類）、寄生蠅（ヤドリバエ類）